巻頭言

情報処理技術の発展に向けて

春　原　　猛†

情報処理技術の発展は著しく，その社会に対する影響は益々広く，かつ，深くなりつつあります．この分野における日本を代表する当学会の果たす役割と責任は，さらに大きくなるであろうことを改めて認識せざるをえないと思います．3万2千人の会員を擁する当学会の更なる発展をめざして，学会運営企画委員会における学会活動の今後のあり方に関する検討を初めとしてさまざまな努力がなされております．今後，これらの改善策がみのり，当学会が情報処理に関心ある人たち全員の団体となり，情報処理技術の発展に対して，社会的貢献を果たしていくことを心から願うものであります．

さて，情報処理技術の発展により我々はさまざまな恩恵を受けており，今後も，人類社会に大きな貢献を果たしていくことは，万人の認めるところであります．しかし，情報処理技術発展にともなう「陽」の部分だけでなく，その発展に付随する問題点，すなわち「陰」の部分にも注目し，それらの問題点を克服する技術の研究開発もあいまって，初めて情報処理技術の健全なる発展が実現されることになると思います．

最近，日本の新聞にもコンピュータ・ウィルス騒ぎに関する記事を時々見かけるようになってきています．まだ欧米に比較すると被害が少なく，対岸の火事的に捉えられていますが，近い将来大きな問題になってくるでしょう．情報システムのセキュリティ，及び，プライバシ保護に関して，反社会的行為を防ぐ手だてを考えていく必要があります．世の中の情報化にともなって，われわれは好むと好まざるに係わらず情報の洪水の中におかれ，時にはそれに翻弄される場合も出てきており，情報フィルタリング技術などが求められています．電子メイル，電子掲示板などのネットワーク情報サービスによりさまざまな恩恵がもたらされている反面，不正情報が瞬時に広範囲に広まるといった側面もあります．情報化，電子化が進んで紙の使用量は減るよりはむしろ増えているという話がよく聞かれますが，省資源ということからも，真のペーパレス・システム実現に取り組んでいく必要があります．また，情報化への順応性に個人差があることがまだ十分配慮されていない面があり，精神的ストレスの原因とか，情報処理技術の恩恵を受けられないといった問題があり，「人と調和がとれた情報処理技術」なる言葉が盛んに使われるようになっています．

このような「陰」の部分の問題解決に対する学会の対応について提案をしたいと思います．まず学際的研究分野の開拓です．名前は必ずしも適当ではありませんが，情報医学，情報倫理学，情報環境学などが必要になってくるのではと思います．これからは従来の物理学のモデルとメタファに代わって生物学のモデルとメタファに頼るようになると予測する人がいます．コンピュータ・ウィルス対策の本などを読むと，医療の本を読んでいるかのような感じがするのは，そのことを暗示している一つの例ではないかと思われます．また，現在当学会のおのおのの研究会で上記問題が関連テーマとして議論されていますが，「セキュリティ」，「暗号化」などのテーマで直接的に議論する研究会を設置して，研究活動を促進することが必要と思います．

最後に，情報処理学会の電子化小委員会では学会活動及びそこで生成される情報の電子化について平成2年度より検討を進めてきましたが，平成4年度より，まず試行を開始する計画です．会員のご協力を得て，学会の活性化に役立てていくとともに，上で述べた問題解決研究の一つの場として活用したらと考える次第です．

(平成4年3月26日)

† 本会理事　三菱電機(株)